

三枝 康雄（さえぐさ やすお）

准教授

専門分野／地域経営 企業経営

慶応義塾大学法学部法律学科卒、株式会社横浜銀行、株式会社浜銀総合研究所取締役地域戦略研究部長を経て、平成25年現職。

著書：『地域経営・企業経営の新潮流』（メタモル出版、2013年）



Bangladesh 視察で感じたこと

BOP(Base of the Economic Pyramid)ビジネスに対する関心がたかまっている。その言葉に強く惹かれ、1年ほど前に仲間を募り Bangladesh 弾丸視察ツアーを決行した。Bangladesh は 2006 年にグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏がノーベル平和賞を受賞し、あるいは 2008 年にはユニクロが駐在員事務所を開設するなど、2000 年代後半から一躍注目を集めることとなった国である。世界中が注目する新興国、中でも最貧国と言われていた Bangladesh という国を、とにかく自分の肌で感じる事が視察の最大の目的である。

簡単に Bangladesh の概況について触れておこう。

JETRO の資料によれば、Bangladesh の人口は、約 1 億 4,869 万人（2010 年）、面積は 14 万 7,570k m² で北海道の約 1.9 倍である。従って、人口密度は高い。2010 年～11 年の GDP は 110,650 百万ドル（1 ドル 80 円換算で約 9 兆円規模）であるが、ここ 5 年間は平均 6% を超える成長率を示している。一人当たりの GDP は 755 ドル。ワーカールベルの月額基本給は 54 ドルで、これは高騰を続ける中国の person 費の 1/3 から 1/4 の水準である。このような person 費の安さが魅力で、中国、韓国、台湾等の投資が増加しており、BRICs に続く、Next11 として位置づけられている。

もちろん、課題も多い。輸出加工区（EPZ）等の工業用地、道路・港湾等のインフラ、エネルギー（特に電気）等の不足は、インタビュー先の多くがあげた大きな課題である。

Bangladesh に到着し、最初に驚くのは人の多さ、車の渋滞、響き渡るクラクションの音というところであろうか。車の運転もなかなかのスリルである。ダッカ郊外に出ると、ほとんど信号のない道路を、何車線道路なのか分からないような状況の中、対向車を巧みに避けながら突き進んでいく。とても助手席には座れない。ここでは割愛するが、縫製工場で見学した人々の様子、インテリジェンスを感じた企業経営者・金融関係者、心配に値しなかった食事内容等々お伝えしたいことはまだまだたくさんある。とにかく凄まじいエネルギーを感じた。日本はやはり成熟したのだとも感じた。お金がない、時間がないと言いつつも、時に海外に飛び出してみることが必要と強く反省した次第である。日本も広いが、当然ながら世界はもっと広いのである。

質問の力

「最後に何か質問はありませんか？」これは、以前企業に勤めていた頃、採用面接時の私の言葉である。人により反応は異なるのであるが、気のせい「特にありません」という回答が多かったように思う。この答えはとても気になる。質問がないということはどう捉えたら良いのだろうか。本当に全部理解できたということなのか、こんな会社のことはもう聞く必要もないということなのか、あるいは次の予定があるので早く切り上げて欲しいというメッセージなのか？

問いを発する側として言えば、相手の意欲や会社に対する理解度、コミュニケーション力などを、相手からの質問を通じて見たいという思いがあるので、あっさり「特にありません」と言われると拍子抜けしてしまう。

会議の場面などでも質問の果たす役割は大きい。最初に発せられる質問によって議論が活発になったり、専門知識のない人の素朴な質問が、議論を本質的なものに導くことを経験された方も多いのではないだろうか。自分の考えを声高に主張しなくとも、効果的に議論をリードする方法があるということだ。

会議は全体を振り返り反省をすることが重要であるが、質問の効用を理解しつつある最近では、野球解説者が「あのプレーで試合の流れが決まりましたね」などと解説するのと同様、「今日の会議はあの質問・発言で流れが決まったな」などと分析し、評論家気取りで楽しんでいることもある。

ところが、立場をかえて今度は自分が「良い質問をしよう」とすると、これはなかなか上手くいかない。言葉にした途端、あるいはその場で気付かなくとも後々振り返って、我ながら愚問だなと感じるケースが多いのである。

数年前に『質問力』という本が出版された。『声に出して読みたい日本語』で有名な斉藤孝氏の著書である。この本の中で斉藤氏は、著名人の具体的な対話から「いい質問」の例を示し、質問の持つ意味やコミュニケーションにおける技の紹介を行っている。紹介され

ているような質問の巧拙まで理屈立てて考えたことはないが、「いい質問」を考える必要性やその効用については同感である。

場の設定や状況によってコミュニケーションの意味も異なるのであろうが、どのような場合であれ、その時間を有意義なものとしなければ実にもったいない。質問の効用を強く意識して、コミュニケーションの効果を上げていきたいものである。

さて、ここまで書いてきたが「最後に何か質問はありませんか？」